

麦圃雑草カズノコグサの多発圃場における除草剤と中耕・土入れを組み合わせた防除法							
[要約] <u>カズノコグサ</u> 多発生の麦圃場では、播種直後 <u>土壌処理除草剤</u> と <u>ハーモニー細粒剤</u> との体系処理を行うと、ハーモニー水和剤体系と同様に残草量を7~8%に抑えることができる。さらに <u>中耕・土入れ</u> を行うことにより、5%以下にまで減少させることができる。							
筑後分場・水田高度利用研究室						連絡先	0944-32-1029
部会名	農産	専門	雑草	対象	麦類	分類	普及

[背景・ねらい]

近年、麦作付水田においてカズノコグサの発生が増加し問題となっている。カズノコグサについては発生生態（昭和62年度成果情報）やハーモニー75DF水和剤の効果（平成5年度成果情報）について明らかにされている。しかし、多発生した場合の防除は困難で、効果の高い防除法や散布が容易な粒剤を用いた防除体系が求められている。そこで、新規の茎葉兼土壌処理剤であるハーモニー細粒剤の効果や除草剤の体系処理、中耕・土入れを組み合わせた防除法について検討し、効率的な防除法を確立する（要望機関名：築上普(H11)）。

[成果の内容・特徴]

1. カズノコグサの発生は麦播種の10日後頃から始まり、30日後に60%、60日後に90%が発生し、80日後には発生終期となる（図1）。
2. 播種直後土壌処理剤またはハーモニー細粒剤単用の場合、残存雑草量は無処理区比10~20%程度で除草効果は十分ではない。両者の体系処理では7~8%程度にまで向上する（表2）。
3. 動力土入れ機で中耕・土入れを行うと残存雑草量は減少する。溝部分の残草量は半分程度に減少するが、畦部分の効果は小さい（表1）
4. 播種直後土壌処理剤とハーモニー細粒剤（1L期）の体系処理及び中耕・土入れを組み合わせることで、残存残草量はハーモニー水和剤(3L期)と播種直後土壌処理剤及び中耕・土入れの組み合わせと同様に無除草区比5%以下に抑えることができる（表2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 県雑草防除基準に登載して、カズノコグサ多発生圃場において防除対策を図る際に活用できる。
2. 土壌水分が高い圃場で発生が多いので、圃場の乾田化を図る。
3. 播種前に発生が多い場合には、播種前に茎葉処理除草剤の処理を行う。

[具体的データ]

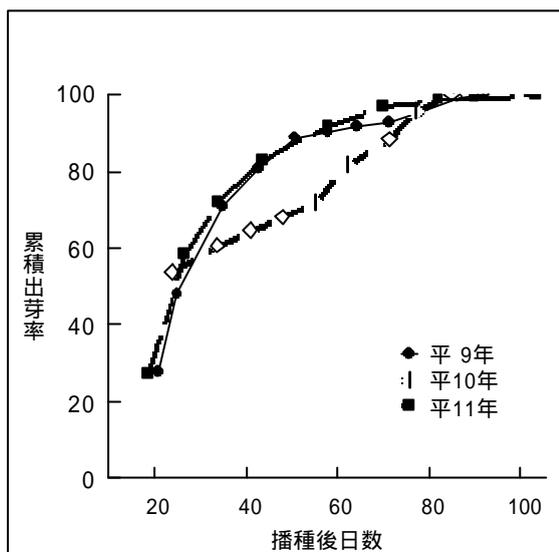


図1 カズノコグサの発消長
注) 麦の播種期は11/30～12/4

表1 中耕・土入れと残存雑草量

中耕・土入れ	本数比			風乾重比		
	H9	H11	平均	H9	H11	平均
無	46	45	46	17	22	20
有 (溝)	14	29	22	4	15	10
" (畦)	45	36	41	12	21	17
無除草	763 2526本/m ²			78.3 124.8g/m ²		

注) 1. 除草剤はハモニ-細粒剤(加^ノコグ^サ 1L、5kg/10a) 処理。無除草区は無処理。
2. 中耕、土入れは1/28～2/3、2/25～3/2の2回



表2 カズノコグサに対する除草剤及び中耕・土入れの効果

除草剤	処理時期 (処理法)	中耕・土入れ	残存雑草量(無処理区比)		
			H10年	H11年	平均
トリアサイト [®] 粒剤2.5	麦播種2日後(土壌)	無	15	14	14
クリアター [®] 細粒剤F	" (")	"	12	8	10
ガレスG(粒剤)	" (")	"	7	19	13
ハモニ-細粒剤F	加 ^ノ コグ ^サ 1L(茎葉土壌)	"	13	28	20
トリアサイト [®] 粒剤2.5 + ハモニ-細粒剤F	麦播種2日後(土壌) + 加 ^ノ コグ ^サ 1L(茎葉土壌)	"	11	3	7
"	"	有	5	2	4
トリアサイト [®] 粒剤2.5 + ハモニ-75DF水和剤	麦播種2日後(土壌) + 加 ^ノ コグ ^サ 3L(茎葉)	無	9	7	8
"	"	有	8	3	5
無除草	-	無	24.1g	124.8g	74.5g

注) 1. 麦の播種期は11/30～12/1。
2. 処理時期の加^ノコグ^サ 1Lは12月中下旬、3Lは1月中下旬。
3. 除草剤の10aあたり処理量は、ハモニ-水和剤10年7.5g、11年10.0g、他は5kg。
4. 中耕・土入れは1月下旬及び2月下旬～3月上旬の2回実施。
5. 雑草調査時期は3月9～14日。
6. 残存雑草量は対無処理区風乾重比、無処理区はm²当たり風乾重を示す。

[その他]

研究課題名：カズノコグサの防除法

予算区分：経常

研究期間：平成11年度(平成9～11年)

研究担当者：田中浩平、石丸知道、福島裕助